2022（令和 4）年度　東京大学　入試問題　第４問（文系）　解答例

一　沈黙するほかない絶対的な力をもつ時空で、筆者の意識は、意識を超え眼に感知しえない大きな宇宙の仕組にとらえられていたから。

＊東大は小説を出題しない。ここでも随想であるから、「私」は「筆者」とすること。
＊「そこでは」＝「巨大なクレーターだけが見える場所では」＝「沈黙に支配された・時空と～自分（を考えると）」の意を正確かつ簡潔に解答化すること。ただし「沈黙に支配された」という比喩のママでは、不可

二　無意味だというケージの言葉は、景観に圧倒されて沈黙した筆者たちの気分を、若干納得しうるものに変えただけであるということ。

＊「かれは」は、単なる「ケージは」のみでは説明になっていない。「ケージの『nonsense! バカラシイ』（無意味だ）という言葉は」という意味を、前問同様に**正確かつ簡潔にまとめる**。
＊「ただちょっとした振動をあたえたにすぎない」＝筆者たちの意識のありようを**少しゆさぶった（＝視点の若干の変化、等）**の意。「振動」（動揺、ずれ）のニュアンス、「ただちょっとした～にすぎない」のニュアンスを正確に反映させること。

三　フランスの音楽家たちはガムランを音楽創作に有益な未知の素材と見て、自らの音楽表現の論理に組みこもうと熱中したということ。

四　筆者は、宇宙と会話するという老人の何も見えない影絵を眺めるうちに、意識を超えた宇宙の一端を直観できた気がしたということ。

＊公開された東京大学の「出題意図」には、「言語化しがたい宇宙との交感をあえて言葉で表現しようとするレトリックを読み解き、それを簡潔に表現できるかどうかを問いました。」とある。それが結論段落の問い（四）に反映されている。出題者の言う「言語化しがたい宇宙との交感」は、「何も見えない」スクリーンで「宇宙と会話している」老人の態様に暗示されている。そして、筆者自身が**「何か」**を「そこに見出した**ように思った**」と記しているのは、「何か」（不定形）・「～ように」であるから、「言語化しがたい」ことを「あえて言葉で表現しようと」しているのである。東大の出題意図から明らかなように、武満徹の文章だからと先入観に陥って強引に音楽に言及などせず、客観的な読解を心掛けたい。

Copyright 2024 - 現代文 まなびの礎 All Rights Reserved.　作成者　中野芳樹